授業科目　生化学実習

【担当教員名】	対象学年	1	対象学科	臨床
土屋　康雄、浅井　孝夫	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	45

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○			◎

【概要・一般目標：GIO】
生体を構成している物質の基本構造や性質、機能などを理解し、それぞれの項目の分析技術を習得する。

【学習目標・行動目標：SBO】
1 実験に使用する器具器材の正しい使用法を熟練する。
2 緩衝液の調整法や性質について説明する。
3 生体物質の測定方法や性質を簡単に説明する。
4 酵素反応に必要な条件について説明する。
5 核酸の抽出法や増幅法について説明する。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1.2	ガイダンス、ピペット、天秤、比色計などの操作法	1	実習
3.4	緩衝液の調整と性質	2	実習
5.6	糖の性質	2	実習
7.8	蛋白質の性質	2	実習
9.10	セルロースアセテート膜による血清蛋白分画	2	実習
11.12	リポ蛋白分画	2	実習
13.14	沈殿法による HDL-コレステロール定量	2	実習
15.16	酵素の Km 算出	2	実習
17.18	核酸抽出	3	実習
19.20	DNA 増幅、電気泳動法によるバンド確認	3	実習
21.22	マグネシウムの測定	4	実習
23	尿中ヒト hCG の確認	5	実習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）				
参考書	生化学	阿部　喜代司　他	医歯薬出版	2010・3,700 円
その他の資料				

【評価方法】
レポート ： 10%（各実習の目的、方法、結果、考察、参考文献まで記載されているか評価する）
実技試験：20%（各種器具器材の操作法の習得度合いを評価する）
定期試験：70%

【履修上の留意点】
統合的な理解のために講義前の自主的学習が重要である。